

道徳科学習指導案
主題名「社会のきまりを守って」〔学指要領：C-(12) 規則の尊重〕
令和7年10月 第4学年 指導者 角田 直樹

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、C-(12)「規則の尊重」に基づき、「生活する上で必要な規則や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ると共に、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」に関する内容項目である。

子供の成長は、所属する集団や社会を構成する一員として様々な規範を身に付けていくことでもある。そのためには、規則や社会のきまりを進んで守ることができるようにする必要がある。規則や社会のきまりは、時に「自分を束縛するものだ」と反発されたり、自分の権利ばかりが強く主張されて義務が軽んじられたりすることがある。しかし、そうした状況の中だからこそ、私たちは規則や社会のきまりが持つ本当の意義について深く考えさせる必要がある。さらに、個人や集団が安全かつ安心して生活できるためには欠かすことができない存在であることも理解させ、子供たちには自ら進んでそれを守り、自分と他者の権利を尊重しながら、自らの義務を果たす精神をしっかりと身に付けさせることが大切である。特に、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために何ができるのか、また、自分に何ができるのかを、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務と考え、進んで規則や社会のきまりを守って行動する態度を養う必要がある。

2 児童観

本学級の児童は、学校生活や日常生活における基本的な規則や社会のきまりについては概ね理解しており、「並んで順番を待つ」「時間を守る」などの行動を意識して実行しようとする姿が見られる。一方で、それらの規則やきまりがどのような理由や目的によって定められているのかについては、十分に考えを深められていない面があり、「なぜ守る必要があるのか」という問いに対して、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られる。また、マナーのように明文化されていないきまりや、相手への配慮を必要とする場面では、自分の立場を優先した行動や発言が見られることもある。道徳科の学習においても、教師の発問に答えることが中心となり、自ら問いをもって価値について考えたり、友達の考えの理由に迫ったりする姿は十分とは言えない。

そこで、本授業では、児童が教材文と主体的に向き合い、疑問や違和感から課題を見だし、友達との対話を通して考えを広げ・深める学習活動を通して、規則や社会のきまりの意義を多面的・多角的に捉え、実生活に生かそうとする道徳的態度の育成を目指す。

3 教材観 教材名「雨のバスでいりゅう所で」（出典：日本文教出版「小学道徳 生きる力4」）

<あらすじ>

ある雨の日、小学四年生のよし子は、母親と共にバスを待っていた。雨足が強く、バス停には既に数人の人々が並び、近くの店の軒下で雨を避けながら順番を守っていた。よし子と母親も列の最後尾に立っていたが、バスの姿が遠くに見えるや否や、よし子は列を飛び出し、バス停の最前列へと走った。雨に濡れたくないという気持ちと、なるべく早くバスに乗りたいという思いからの行動であった。

その瞬間、母親が無言でよし子の腕をつかみ、再び列の後ろへと引き戻した。普段は穏やかで優しい母の、その静かで厳しい態度に、よし子は驚きを隠せなかった。やがてバスが到着し、既に席は埋まっていたため、二人は立ったまま乗車することになった。バスの中でも、母は何も語らなかった。その沈黙の中で、よし子は自らの行動を振り返り、順番を守ることの大切さに気が始める。

本教材は、雨の日のバス停で順番を抜かしてしまう主人公よし子の行動と、それに対する母親の無言の態度を通して、規則や社会のきまり、マナーの意義について考えさせる教材である。よし子の行動は、バスに早く乗りたいという気持ちから生じたものであり、児童にとっても共感しやすい場面である。一方で、その行動は周囲の人々の立場や思いを十分に考慮したものとは言えず、公共の場におけるマナーの問題を含んでいる。また、母親が言葉で叱るのではなく、態度で示したことにより、よし子自身が自分の行動を振り返り、考えを深めていく過程が描かれている点に本教材の特長がある。

本時では、教材文を読んで感じた疑問や違和感から「道徳科のなぜ」を見だし、その問いについて友達と話し合う活動を通して、規則や社会のきまり、マナーの大切さを自分との関わりの中で捉え

させたい。そして、自分の行動が他者や社会に与える影響について考え、公共の場で主体的に判断し、行動しようとする態度へとつなげていく。

4 研究との関わり

本研究は、課題を自ら見だし、自分の考えを広げ・深めることができる児童の育成を目指し、道徳科の授業において児童が主体的に教材文と向き合い、問いを立て、他者と関わりながら道徳的価値について多面的・多角的に考える学習の在り方を追究するものである。

本学級の児童は、他教科では主体的に学習に取り組み、協働的に意見を交流する姿が見られる一方、道徳科においては、教師の発問に答えることに終始し、自ら問いをもって価値について考えを深めたり、他者の考えの理由に迫ったりする姿が十分とは言えないという課題がある。また、規則や社会のきまりについても、「守る・守らない」といった行為の是非にとどまり、その意義や背景を自分の生活と結び付けて捉えることに難しさが見られる。そこで本時では、研究で設定した二つの手立てを位置付け、児童が受動的に発問に答える存在から、自ら問いを立て、友達と話し合いながら考えを再構成する主体へと変容することを目指す。

手立て1として、児童が教材文を読んで感じた疑問や違和感から「道徳科のナゼ」をつくり出す場面を設定する。三人組で問いを比較・検討しながら一つの「道徳科のナゼ」を作成・共有することで、学習の出発点から児童自身が課題を見だし、価値の本質に迫ろうとする主体的な学びを促す。教師は、児童の問いを整理・分類し、本時の中心となる「道徳科のナゼ」を位置付けることで、学習の焦点が明確になるよう支援する。


手立て2として、中心となる「道徳科のナゼ」について、児童同士が話し合う活動を行う。本研究における「話し合う活動」は、相手の意見を聞くだけでなく、「なぜそう思ったのか」と問い返し、考えの背景や理由を引き出す活動である。こうした対話を通して、児童は自分の考えと他者の考えを比較・検討し、考えを広げるとともに深めていくことができる。

これら二つの手立てを通して、児童が規則や社会のきまり、マナーについて、自分の行動が他者や社会に与える影響を踏まえながら多面的・多角的に考え、道徳的価値を自分との関わりの中で捉えることができるようにする。そして、公共の場において主体的に判断し、行動しようとする道徳的実践意欲と態度の育成につなげていく。

II 本時の学習

1 ねらい 教材文を読んで感じた疑問や違和感から、自らの課題を立てて友達と話し合う活動を通して、公共の場における規則や順番を守ることのマナーの大切さに気付くとともに、社会の一員として規則や社会のきまり、マナーを進んで守ろうとする態度を育てる。

2 展開

主な学習活動 主な発問(◎中心発問◇補助発問) 予想される児童の意識〔S〕	◎研究上の手立て ○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 (導入5分)</p>  <p><想定されるテキストマイニングの結果例> S：きまりはあるけど、破ってしまったことがあるな。 S：きまりってなんのためにあるのだろうか。</p>	<p>○本時のめあてをつかみ、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつことができるよう、規則の尊重について事前に児童が回答したアンケート結果を示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【事前アンケート】</p> <p>①道路を渡る時には、横断歩道を使うべきである。(5件法)</p> <p>②(横断歩道まで距離のある車の通っていない道路の写真を提示して)あなたは、この道路を横断しますか?(3件法)</p> <p>③(②で答えた)理由を書いてください。 (自由記述)</p> </div> <p>○内容項目について追究することができる「道徳科のナゼ」を児童が考えることができるよう、学習のめあてを示す。</p> <p>○児童の自由記述の結果をA I テキストマイニ</p>

<p><めあて> きまりやマナーを守るためには、どんな気持ちや考えが大切なのだろうか。</p>	<p>ングで集約し、自分たちの意見を客観視したうえで、めあてにつなげられるようにする。</p>
<p>2 教科書の教材文の教師による範読を聞く。 (展開5分)</p> <p>3 教材文を読んで気になったことや疑問から、「道徳科のナゼ」を作る。(展開10分)</p> <p>①各三人組で「道徳のナゼ」を作る。(5分) ②「道徳科のナゼ」を整理し、本時の「道徳科のナゼ」を絞る。(5分)</p>	<p>◎規則やマナーについて児童の考えを焦点化することができるように、よし子さんの行動に着目させ、「道徳科のナゼ」になりそうな箇所に赤線を引かせる。</p> <p>◎三組で一つの「道徳科のナゼ」を作り、A3判の紙に「道徳科のナゼを」一つ書く。</p> <p>◎「道徳科のナゼ」の紙を班ごとに黒板に貼り、似ている「道徳科のナゼ」をまとめる。</p> <p>◎中心となる「道徳科のナゼ」を決定し、他の「道徳科のナゼ」についても短時間で触れる。</p> <p>◎絞り込む視点として、「めあて」について考えを深めることができる「道徳科のナゼ」を見つけていくことができるよう助言する。</p>
<p>想定される「道徳科のナゼ」と児童の考え</p> <p>◎よし子さんは、なぜバスが見えたときに一目散に駆け出したのだろうか S：バスに早く乗りたくて、急がなきゃと思ったから。 S：他の人はバス停に並ばず、軒下にいたから。</p> <p>◎なぜ、お母さんはよし子さんを引き戻したのだろうか S：バス停では、順番を守るのがあたり前なのに、よし子さんが守っていなかったから。 S：もし注意しなかったら、よし子さんがそのままマナーを守らない子になってしまうかもしれないから。</p> <p>◎お母さんの顔が「いつもと違う」と感じたのは、なぜだろう S：きまりを守れていない自分に気付いたから S：自分の行動に自分勝手な部分があると気付いたから</p> <p>◎よし子さんは、どんなことを考え始めたのだろうか S：自分の行動でまわりの人がいやな気持ちになったかと思った。 S：自分の行動が迷惑をかけていたかもしれないと思った。</p>	
<p>4 中心となる「道徳科のナゼ」について、道徳的価値についての自分の考えをもち、考えを深める。【訊き合う活動】(展開20分)</p> <p>想定される補助発問と児童の考え</p> <p>◇あなたがよし子さんなら、バスを見て走り出しましたか？ S：走り出した。なぜなら、軒下に並んでいる人は、バス停前で待っていない人だと思ってしまうから。 S：順番に待つ。なぜなら、雨が降っている状況を考えれば、軒下にいるのは、順番待ちとわかるから。</p> <p>◇軒下に並んでいる人は「並んでいる」ことになるのだろうか？ S：並んでいないと思う。なぜなら、傘を差せば、バス停に並べるから。 S：並んでいない。なぜなら、「バス停に並ぶとはこうである」という絶対</p>	<p>◎訊き合う活動を充実させるために、中心となる「道徳科のナゼ」について自分の意見をワークシートに記入し、三人組で交流させる。</p> <p>◎多面的・多角的な視点から内容項目について考えを深めることができるように、児童の「道徳科のナゼ」に対する意見を基に、補助発問を行う。</p> <p>◎訊き合う活動の話型を確認したり、持参させたりして交流活動をさせ、お互いの考えの本音について訊き合う。</p> <p>◎訊き合い活動を行う際には、ワークシートを持たずに交流させ、児童自身が残しておきたい意見や考えのみ、訊き合う活動後にメモできるようにする。</p> <p>◎訊き合う活動を通して、補助発問を児童同士で行うことで道徳的価値を深める（「人間理解」「他者理解」）ことができるようお互いの考えについて訊くことを指導する。</p>

的なきまりがあるわけではいから。

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(終末5分)

○児童の生き方につなげることができるように、「これまで」⇒「今」⇒「未来」の三つの時間軸に対する自己の振り返りや納得解を記述するように促す。

これまでは、給食の列などに横入りをしてしまったことがありました。
今日の授業を受けて、みんなで生活するためのきまりがある理由が分かりました。
これからは、周りの人の気持ちを考えるためにきまりやマナーを守りたいと思いました。

◆評価の視点

- ・発言、ワークシートの記述から「公共の場で一人一人が規則や社会のきまりやマナーを守ることの意義について、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。
- ・発言、ワークシートの記述から「公共の場で、これからの自分がどのように行動するべきであるかについて、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。

3 板書計画

<板書>

10月23日
雨のバスていりゅう所で

①	②	③
		車来る
アンケート結果		

なぜ、バスが見えたときに駆け出したのか

よし子さんとお母さんのイラストを貼る

お母さんはなぜよし子さんを引き戻したのか

お母さんの顔を見て何を考えたのだろうか、

お母さんの顔を見て、どんなことを考えたのか

よりよい社会をつくるため

ルールやマナーが必要となる

自分の願いや思い
↓
規則や社会のきまり

めあて
きまりやマナーを守るためには、どんな気持ちや考えが大切なのだろうか。

<電子黒板>

<教科書の場面絵を提示>